



# 2015ピースアクション in ヒロシマ 報告

日程：8月5日（水）

参加：6生協60名（大人50名子ども10名）  
 パルシステム東京14名、東都生協3名、  
 東京南部生協4名、東京ほくと医療生協4名、  
 東京保健生協21名、全労済東京都本部14名、  
 事務局3名（秋山、荒井、飯塚）



広島と長崎に原爆が投下されて70年が経ち、被爆者の平均年齢も80歳を超えた今年。被爆の実相を継承することの大切さを、被爆者の方の思いを1人でも多くの方に届けたい…。そんな思いを胸に、今年のピースアクション in ヒロシマが行われました。

今年度も、各生協ではそれぞれ独自に事前学習をし、日本生協連などが主催する虹のひろばや被爆者との交流に臨み、被爆者から次世代を担う若者たちへと平和への思いがリレーメッセージで語られました。また、みんなのひろばでは、各生協や団体の展示や体験ブースを見学して回りました。夕方からは、東京都生協連主催の「被爆者との交流」を行い、被爆者の方から証言をお聴きし、夕食を摂りながら参加者で交流をしました。

最終日には平和祈念式典にも参列し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けてみんなの願いを込めました。

## ● 虹のひろば



《虹のステージ》オープニングは「被爆ヴァイオリンと被爆ピアノ演奏」。70年の時間を経て、平和のメッセージを奏でました。被爆ヴァイオリンは今年5月にNPT再検討会議が開催されたニューヨークでも演奏されたそうです。主催者挨拶に続いて、松井広島市長からは「核兵器は『絶対悪』2020年までの核兵器廃絶を目指し、核兵器禁止条約の交渉開始を求める国際世論の拡大に取り組んでいる」などの挨拶がありました。その後、被爆者代表・高校生代表・子ども平和会議議長へとリレーメッセージが披露されました。また、今年初めての試みとして広島市立基町高校創造表現コースの生徒が被爆体験証言者と共同で制作した「原爆の絵」の紹介もされました。

### 《リレーメッセージ》

#### 被爆者代表 箕牧 智之さん

NPT再検討会議に参加しました。  
 核保有国と非保有国の温度差を感じました。広島、長崎の実相を見て被爆者の声に耳を傾けて欲しいと思います。

#### 広島市立舟入高等学校

#### 演劇部

「広島戦災児育成所『童心寺』物語」を通して平和のメッセージを発信します。



#### 子ども平和会議

戦争の悲惨さを伝えていくことの大切さを感じました。



## ● みんなのひろば

NPT再検討会議に参加された方の報告や、「継承」2010年からの振り返りコーナー、全国の生協や他団体の取り組みの様子など、展示が盛りだくさん。フィナーレは虹のひろば合唱団による合唱と朗読。戦争や核兵器の恐ろしさ・平和の大切さなどすてきな歌声と朗読で伝えてくれました。最後の曲「SING」では、自然と手拍子が鳴り響き、会場が一体となって幕を閉じました。



# 「被爆者との交流～被爆証言をお聴きする集い～」& 交流会

広島 YMCA にて

今年は例年にないほど若い世代の参加者が多く、みなさんの平和に対する関心が高いことを実感しました。被爆証言は当初お二人の方から順にお話をお聞きする予定でしたが、お一人が体調を崩され欠席となってしまったため、広島医療生協の方にお手伝いいただきながら、急ぎょインタビュー形式でのお話となりました。

証言をしてくださった瀧本清也さんは被爆当時は陸軍幼年学校在学中の15歳で、原爆投下後に入った広島市内の様子を生々しくお話してくださいました。原爆は何故朝の8時15分に落とされたのかなど、具体的なお話を聞いて改めて戦争の残酷さや恐ろしさを感じました。また、参加していた小学生数人から質問の手が挙がり、瀧本さんのお話に熱心に耳を傾け、メモを取っていた姿が印象的でした。被爆者から直接話を聞ける最後の年代といわれている私たちが次世代へ語り継いでいくことの大切さを改めて感じた交流会となりました。

## 《被爆証言をお聴きして》

被爆者の方の生の話は臨場感があり、とても心に突き刺さる。実際にお話を聞くことができて本当によかった。

事前にアニメを見たが、実際のお話とは全然違った。たくさんの人に事実を知ってもらいたい。

これからも語り継いでいって欲しい。



～お二人を囲んでの写真より～

世界で初めて原爆が落とされた広島に来られたことに深い意味を感じた。

事前に聞いた関千枝子氏の話とはまた違った、爆心地の陰からの生々しい様子を聞くことができてとてもよかった。

初めて広島に来た。これを機にこれからも来たいと思う。



## 参加者アンケートより

- ・何の罪もない人たちが核の犠牲になる悲惨さ、愚かさ、苦しみが絶対にあってはならないのだ!と思った。
- ・被爆者の方が直接語り部として伝えていけるということは単に高齢というだけではなく、当時表現できる年齢であったということも重要な要素と言える。戦争では人が消耗品だったと気づいた時の辛さは計り知れないものであっただろう。
- ・被爆体験を聞き、悲惨な状況を詳しく知ることで改めて戦争を起こしてはならないと強く感じた。同じことを繰り返さないためにも、私たちが聞いた貴重な話を無駄にしてはならないと感じた。
- ・被爆体験を子どもと一緒に聞いて、経験できてよかった。
- ・当時の現地の様子をリアルに感じる事ができた。これが実際に起きたこととしっかり受け止めて、しっかり伝えていかなければならないと思った。

## ＜ 8月6日 平和祈念式典 ＞

被爆から70年を迎えた式典当日は、史上最多の各国の代表なども含め、例年より多くの方とともに参列しました。犠牲者を悼む祈りをささげると同時に、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けての願いを込めました。

